（様式 3）

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代表者氏名	勝谷紀子	所属	北陸学院大学
研究会等名称	公益社団法人日本心理学会　難聴者の心理学的問題を考える会		
成果概要	1）参加人数（会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください） 会員　　11名（うち認定心理士　2　名） 非会員　9名（うち認定心理士　0　名） 2）集会等の目的・成果等 （実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください） 本研究会では、聞こえや聞き取りに困難があるにもかかわらず、難聴に対する理解や配慮が十分ではないという現実から生じる心理学的問題について考え、難聴者に対する心理学的研究の方向を探る。研究会の主なメンバーは、障害児教育、知覚心理学、認知心理学、臨床心理学、発達心理学、社会心理学などさまざまな領域で難聴の研究をしている研究者、現場で活動をおこなう実践者である。 今年度は、研究会の成果をまとめた研究会編集の書籍「難聴者と中途失聴者の心理学」をかもがわ出版から刊行することができた。難聴の問題に関心を持つ研究者や臨床家に書籍を広く周知し、意見交換と情報交換をおこなうことを目的として、研究集会を２度にわたり実施した。 まず、日本心理学会大会において公募シンポジウム「難聴者・中途失聴者の心理学：聞こえにくさをかかえて生きる」を開催した。難聴を持つ話題提供者の多様な語りをふまえ、難聴者への支援に携わった先生にさまざまな角度から指定討論をいただき、多様な難聴者・中途失聴者の理解、心理的支援の今後のあり方を議論するねらいであった。登壇者は、代表の勝谷のほか、今尾真弓（Office424）、高宮明子（大阪府立支援学校）、名畑康之（札幌市立札苗北小学校）、小渕千絵（国際医療福祉大学成田保健医療学部）、佐野智子（城西国際大学福祉総合学部）であった（敬称略）。 また、自主シンポジウム「多様な難聴者・中途失聴者への支援のあり方を考える」を日本特殊教育学会 58 回大会において開催した。多様な聞こえにくさをかかえて生きる難聴者・中途失聴者へのよりよい支援のあり方を考えることをねらいとした。登壇者は、代表の勝谷のほか、大島美絵（栃木県立足利特別支援学校）、栗田季佳、高宮明子、小渕千絵、佐野智子であった（敬称略）。 これらシンポジウムの開催により、多様な聞こえにくさを持つ難聴者への支援のあり方について有益な意見交換、情報交換を行うことができた。来年度も引き続き、難聴者の理解とよりよい支援を考えるために学術大会でのシンポジウム等で広く周知し、難聴・難聴者についての啓発活動もおこなう予定である。		

（様式4）

研究集会参加者リスト

〈研究会名〉

難聴者の心理学的問題を考える会（研究会番号20011）

研究集会開催日：　2020年 9 月 8 日(火)

	氏名	所属	会員	認定心理士
1	勝谷紀子	北陸学院大学人間総合学部	○	○
2	名畑康之	札幌市立札苗北小学校		
3	今尾真弓	Office424	○	
4	高宮明子	大阪府立支援学校		
5	小渕千絵	国際医療福祉大学成田保健医療学部	○	
6	佐野智子	城西国際大学福祉総合学部	○	
7	嶋田真奈美	放送大学		○
8	※日本心理学会公募シンポジウムとして			
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				

（様式4）

研究集会参加者リスト

〈研究会名〉

難聴者の心理学的問題を考える会（研究会番号20011）

研究集会開催日：　2020 年 9 月 19 日(火)

	氏名	所属	会員	認定心理士
1	勝谷紀子	北陸学院大学人間総合学部	○	○
2	大島美絵	栃木県立足利特別支援学校		
3	栗田季佳	三重大学教育学部	○	
4	高宮明子	大阪府立支援学校		
5	小渕千絵	国際医療福祉大学成田保健医療学部	○	
6	佐野智子	城西国際大学福祉総合学部	○	
7	藤木和子	法律事務所シブリング		
8	※日本特殊教育学会自主シンポジウムとして			

（様式5）

2021年3月28日

日本心理学会研究会　2020　年度会計報告書

研究会名称　難聴者の心理学的問題を考える会

研究会番号　20011

助成金額　¥30,000

年 月 日	項 目	金 額
2020年8月12日	遠隔情報保障（１時間×３人）	¥15,000
2020年8月12日	非会員および非研究会成員（大島美絵先生）への謝金	¥15,000

支出合計　¥30,000